

「高齢ドライバーの事故の報道と、自分自身の事故がきっかけで、80歳になったら免許返納しようと考えていました。」



安東 吉明さん 80歳 (小松里町在住)

「朝の児童の登校時見守り活動で、子どもたちに元気をもらっています。」と優しい笑顔で話す安東さんは、地域交通安全活動推進委員として、30年以上八木地区の交通安全に貢献してきました。自営業で毎日車を運転し、趣味はゴルフとお元気そのものですが、昨年の12月、80歳の誕生日に運転免許を返納しました。安東さんに返納を決めた理由をお聞きしました。

「一昨年6月、福岡市で81歳の男性が起こした事故(男性と同乗の妻が死亡。男女計8人が負傷)の報道を見たことがきっかけになりました。その男性は免許返納を迷っていましたが、自身が会長を務める自治会の活動を考えると踏み切れなかったそうです。その日も私と同じように朝の児童の見守り活動をしていました。地域を支えてきた人がこんな大事故を起こしてしまい、どんなに無念だっただろうと思いました。おそらく運転中、体に異変が起きたのだろうということでしたが、80歳を超えたらこういうことが起こるんだ、そろそろ自分も返納を考えないと、と思いながら年が明けました。そして忘れもしない昨年の2月19日に、私自身が自宅前で、怖い経験をしました。妻と買い物から帰って来たところに対向車が来たので、できるだけ端に寄ろう

としたらタイヤが縁石に当たりました。『まさか自分がこんな運転ミス?』と思ったその時、右足にこむら返りが起こりました。アクセルとブレーキの間に足が挟まって抜けられない。パニックになり、ニュートラルにしたりエンジンを切る余裕がありませんでした。幸い大きな事故にはなりませんが、その晩に家族を集め、今日を最後に車を降りる、今後一切運転しないと伝えました。私が周り的高齢者に言っているのは、自分では分からないかもしれないが、確実に老いは進んでいるということ。みんな私は大丈夫、今まで事故を起こしたことがない、信号も守っていると言うんです。それでも判断力は鈍っている、身体の異変も私のようにいつ起こるか分からない。他人事だと思わず、自分にも起こりうるのだと常に頭に入れておいてほしいです。」

あなたもそろそろ、免許返納を考えませんか?

運転を卒業し、運転経歴証明書を作りませんか

運転免許証を自主返納して、運転経歴証明書の交付を受けると、様々な特典が受けられます。詳しくは、府ホームページ「高齢者運転免許自主返納サポート制度」をご確認ください。

必要な物 運転免許証、交付手数料1,100円、写真(縦3cm×横2.4cm)1枚

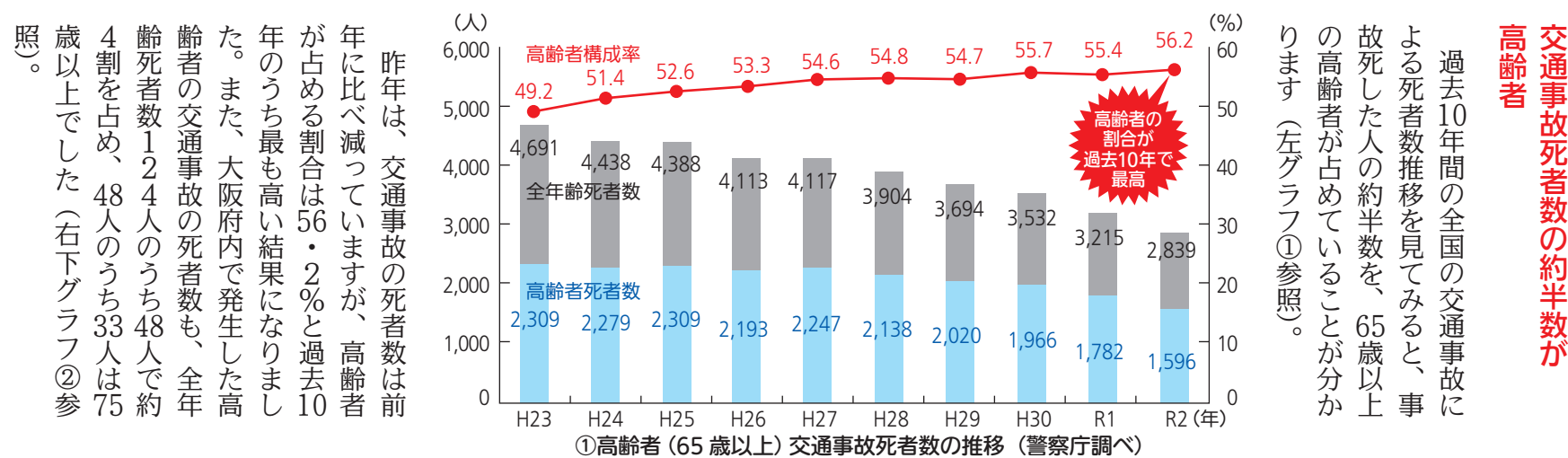
申請・問合 岸和田警察署 (☎439-1234 月～金 曜日午前9時～午後5時)



府ホームページはこちら

事故に遭わない、事故を起こさないために 一緒に考えよう、高齢者の交通安全

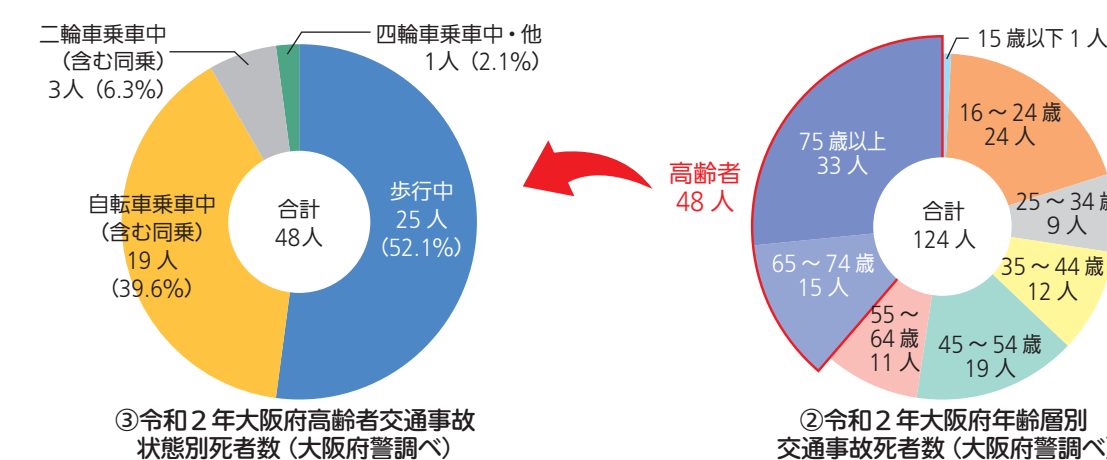
問合 岸和田警察署交通課 (☎439-1234)



他人事ではない高齢者の交通事故

過去10年間の全国の交通事故による死者数推移を見ても、事故死した人の約半数を、65歳以上の高齢者が占めていることが分かります(左グラフ①参照)。

交通事故死者数の約半数が高齢者



今後さらに高齢化が進んでいくと、高齢者が関係する交通事故の増加が懸念されます。近年では、事故の被害者だけではなく、加害者になるケースが増えています。その背景には、高齢者人口の増加だけでなく、加齢による運動能力や身体機能の変化など高齢者特有の事情があります。誰もが年を取ります。高齢者の交通事故は他人事ではありません。高齢者の交通事故を防ぐには、本人だけでなく、周りの人の理解と協力も重要になってきます。

事故を起こさないうために

記憶に新しい「東池袋自動車暴走死傷事故」

一昨年の4月に発生した東池袋自動車暴走死傷事故は、皆さんの記憶にも新しいのではないのでしょうか。乗用車が暴走して交差点に進入し、歩行者や自転車などを次々にはね、母子2人が亡くなり、9人が負傷しました。運転していたのは当時87歳の高齢者でした。あのような悲惨な交通事故は、二度と起きてはなりません。

身体機能の衰えを自覚する

しかし、高速道路での逆走や、アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違え、店舗などに突っ込むなど、高齢ドライバーが起こした事故の報道は後を絶ちません。高齢者が交通事故を起こさないようするにはどうすればよいのでしょうか。

個人差はありますが、誰もが年を取ると、運動能力や判断力が低下していきます。視力などの身体機能も衰えていきます。高齢ドライバーはそういうことを自覚し、自身の運転技術を過信せず、意識して衰えをカバーすることが大切です。併せて、周囲の状況に目を配る習慣を身につけましょう。また、運転する日の体調や天候、路面状況などに合わせた安全運転を心掛けましょう。先進安全技術を備えた安全運転サポート車(サポカー)などへの乗り換えを考えてみるのも一つの方法です。

事故に遭わないために

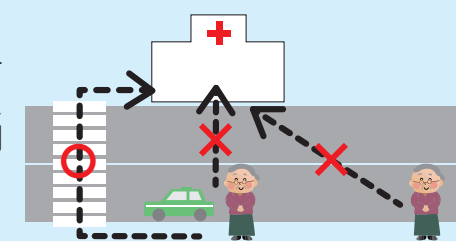
高齢者の交通事故の特徴

昨年の大阪府の高齢者交通事故死者数48人の状態別死者数を見てみると(左上グラフ③参照)、48人のうち44人が歩行中または自転車乗車中の事故で亡くなっています。歩行者25人のうち、道路横断中の死者が20人です。

また、高齢者が歩行中および自転車乗車中に死亡した交通事故の約6割が自宅から1km以内で発生し、高齢者の死亡事故の約8割が

歩行中や自転車乗車中の事故を防ぐには

- ▲信号を守りましょう！
信号が黄色や青色点滅になれば、無理に横断せず、次の青信号を待ちましょう。
- ▲安全確認をしましょう！
道路を渡る前に必ず安全を確認しましょう。横断中も近づいてくる車に注意し、慣れた道でも交差点や曲がり角では、一度止まって安全を確認しましょう。
- ▲危険な横断は絶対にやめてください！
斜め横断、横断歩道以外の横断、駐車車両付近からの横断、横断禁止場所の横断は絶対にやめましょう。少し遠回りでも横断歩道を利用しましょう。
- ▲70歳以上の高齢者は自転車で歩道を通行できます
自転車は軽車両で、原則、車道を通行しなければなりません。自転車歩道通行可の標識がある場合や、70歳以上の高齢者の場合などは、歩道を通行できます。危ないと感じる時は、歩行者に注意して歩道を通行するようにしましょう。
- ▲思いやりのある運転を
高齢者本人だけが気を付けていれば交通事故は防げるのでしょうか。そうではありません。車を運転する人も、歩くのが遅い、走行車両の速度や距離を見誤りやすいといった高齢者の特徴を理解し、高齢者を見かけたら、減速して徐行する、一時停止をするなど、思いやりのある運転を心掛けましょう。



交差点および交差点付近で発生しています。昨年、本市で起きた高齢者の交通事故数は202件で、死傷者は116人(死者1人)でした。歩行中または自転車乗車中の事故が5割以上を占めています。歩行中や自転車乗車中の事故を防ぐにはどうしたらよいのでしょうか。

自動車の運転に不安を感じたら

運転に自信がなくなったり不安を感じたりしたら、ご家族や周りの人に相談して、運転免許証の自主返納についても検討しましょう(上記参照)。

警察では、加齢に伴う身体機能の変化などのため、運転に不安のある高齢ドライバーやその家族が、専門知識の豊富な職員に直接相談できる窓口を設けていますので、下表の相談窓口までお問い合わせください(月～金曜日午前9時～午後5時)。

相談窓口	問合
門真運転免許試験場適正試験係(門真市)	06-6908-9121
光明池運転免許試験場適正試験係(和泉市)	0725-56-1881

4月6日(火)～15日(木) 春の全国交通安全運動

市内では、交通事故件数は、減少傾向にありますが、自転車に関係するものと道路を横断中の歩行者の交通事故が依然として多く発生しています。道路を横断するときは遠回りでも横断歩道や信号のあるところを横断し、必ず左右の安全を確認しましょう。また、自転車に乗るときは道路の左側を通行し、夕方や夜間に出かけるときには、ライトを点灯し、白っぽい服装や反射材などを身につけるなど、車などから

見つけやすくし、事故に遭わないようにしましょう。全国重点 ①子どもと高齢者を始めとする歩行者の安全の確保 ②自転車の安全利用の推進 ③歩行者などの保護を始めとする安全運転意識の向上 大阪重点 信号遵守の徹底 スローガン 交差点 青でも左右 確認を交通事故死ゼロを目指す日 4月10日(出) 問合 建設管理課交通安全担当 (☎423-9499)

安全運転相談ダイヤル

8080

月～金曜日 9:00～17:00

こんなことが増えたら要注意!!

- ☑チェックしてみてください。
- ☐右左折のウインカーを間違ったり、出し忘れたりする。
- ☐歩行者・障害物・他の車に注意が向かないことがある。
- ☐車庫入れの時、壁やフェンスなどに車体をこすることが増えた。
- ☐カーブをスムーズに曲がれないことがある。
- ☐信号や標識を無視して通行することがある。
- ☐反対車線を走りそうになったことがある。
- ☐アクセルとブレーキを間違えそうになる。

※ グラフ内の数字は単位未満で四捨五入しているため、合計などが内訳の数字の和と一致しない場合があります。